

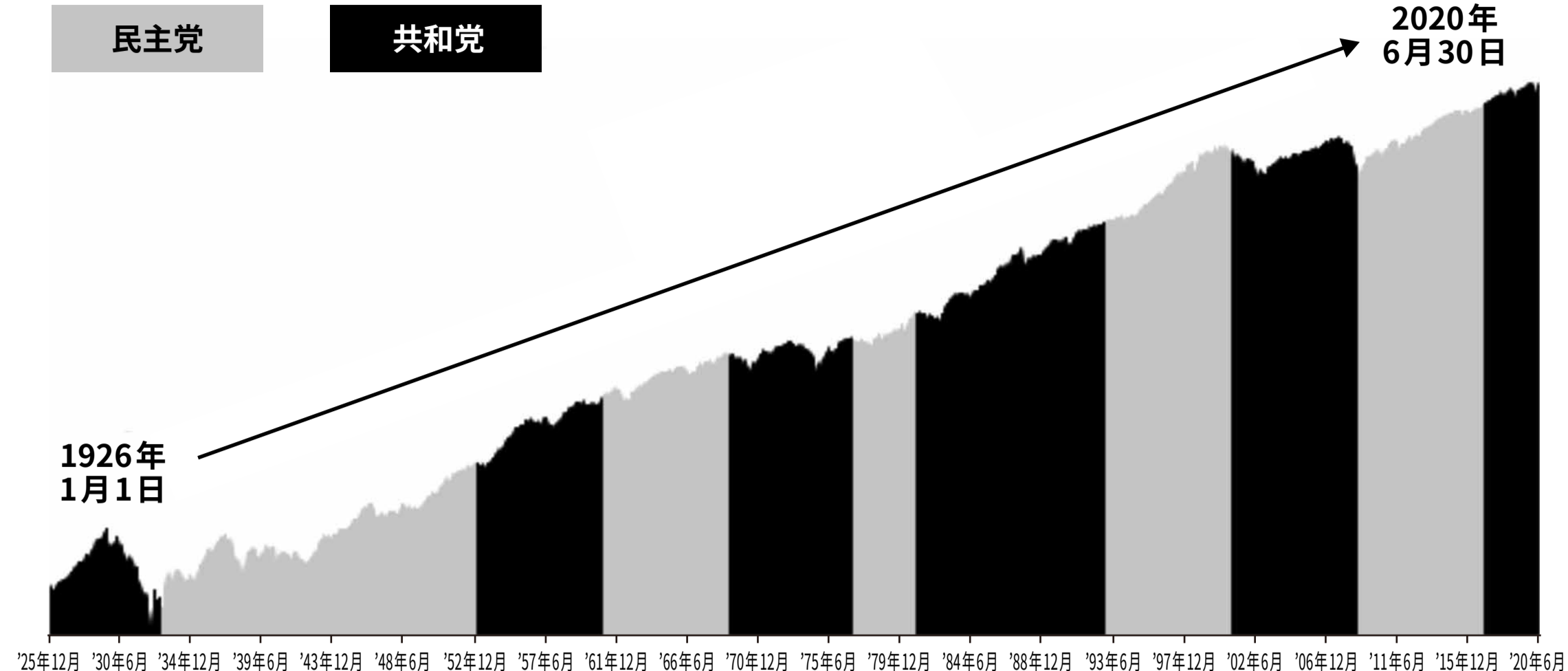
iシェアーズETFで米国株投資が より手軽に、さらに低コストに!

iシェアーズ S&P500 ETFで米国株に手軽に分散投資

世界が目撃した米国大統領選挙

米国大統領選挙は、民主党のバイデン氏が史上最多の7千万票超の得票数を獲得し勝利を収めました。市場は選挙結果を好感し、S&P500指数は約7か月ぶりの高値を付けました。¹ただ、過去を振り返ってみると政権の党派や議会構成に関わらず、米国株市場は成長し続けてきました。

【図1】政権の党派に関わらず、米国株市場は成長してきた



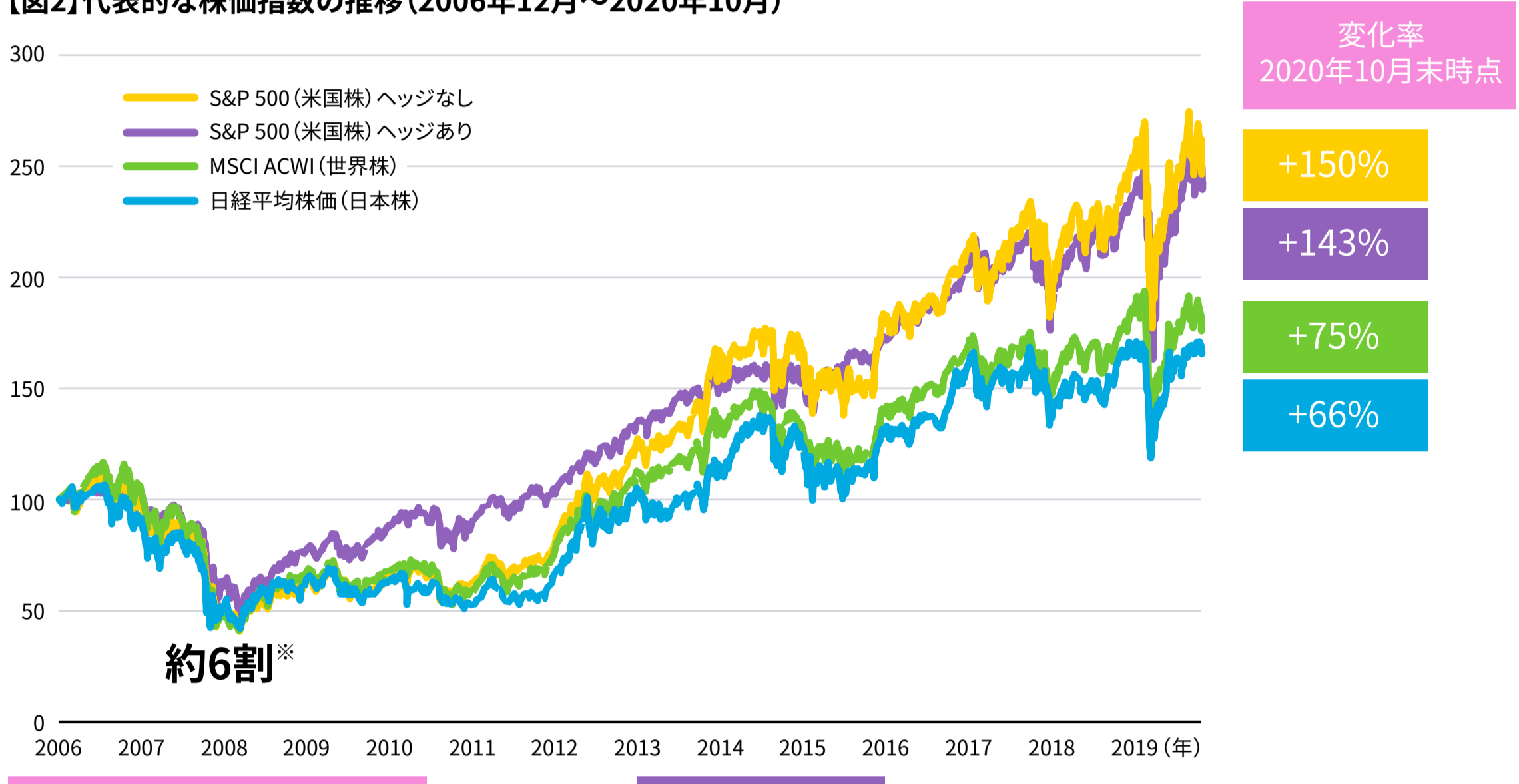
出所：モニングスター、2020年6月末時点。米国株式市場の参照指数：S&P500(1970年1月1日～2020年6月)、イボットソン・アソシエイツ S&BI米国大型株指数(1926年1月1日～1970年1月1日)。指数のパフォーマンスには運用報酬、取引コストおよび費用は含まれていません。指数は運用されておらず、指数に直接投資することはできません。過去の運用成績は将来の運用成果を保証するものではありません。債券ファンドへの投資は、現物債券への投資とは異なり、現物債券投資にはないリスクを伴います。上記は例示のみを目的としており、投資助言を提供するものではありません。
1. 出所：ブルームバーグ(2020年11月6日時点)。S&P500指数は大統領選挙の週に7.3%上昇し、2020年4月10日の週の11%上昇に次ぐ水準となりました。

回復力の高い米国株

日本株はアベノミクス以降の株価上昇の記憶が鮮明に残っているかもしれませんが、2006年以降の変化率を比較すると、米国株の力強さが目立ちます。今年は新型コロナウイルスの感染が急速に拡大する中で、経済や社会への影響が懸念され、世界中のマーケットで大きな変動がありました。過去に市場が大きく下落した局面からどのように株価が推移してきたのかを少し長い期間でみてみましょう。ここでは、2008年～2009年の世界金融危機を取り上げます。

図2は、2006年12月～2020年10月における米国株、世界株、日本株の代表的な株価指数の推移を示したものです。世界金融危機後、元の株価水準に戻るのに要した期間は、日本株が約6年であったのに対し、米国株は約3年でした。これは当時の株価の動きの一例ではありますが、米国株の回復力の高さを示していると言えるでしょう。

【図2】代表的な株価指数の推移(2006年12月～2020年10月)



出所：ブルームバーグ、S&Pよりブラックロック作成、2020年10月末時点。2006年12月末時点の各株価指数(円換算)のネットトータルリターンを100として指数化し、変化率を比較。※ 表示された合計4指数の平均下落率、2009年3月10日時点。

S&P500: 米国を代表する株式指数

米国の個別企業ではなく、米国株式市場全体に投資をしたいと考えたとき、米国を代表する株式指数に着目される方が多いのではないのでしょうか。代表的な指数として、S&P500、NYダウ、NASDAQ100²等が挙げられます。中でもS&P 500は、米国の主要産業を代表する500社により構成されており、米国株式の時価総額の約80%をカバーしています。成長率の高さが特筆される巨大IT企業のカンファム(アルファベット(グーグル持ち株会社)、アマゾン・ドット・コム、フェイスブック、アップル、マイクロソフト)が全て含まれています。なお、NYダウはGAFAMではアップルとマイクロソフトのみが組み入れられています。

【表1】米国を代表する株式指数の比較

指数名	S&P500	NYダウ	NASDAQ100
銘柄数	505	30	103
算出方法	時価総額加重	株価加重	時価総額加重
組入上位5銘柄(%)	アップル 6.5 マイクロソフト 5.6 アマゾン・ドット・コム 4.8 フェイスブック 2.3 アルファベット 1.8	ユナイテッドヘルスグループ 7.6 ホーム・デポ 6.6 セールスフォース 5.8 アムジェン 5.3 マクドナルド 5.4	アップル 13.0 マイクロソフト 10.7 アマゾン・ドット・コム 10.6 アルファベット 7.7 フェイスブック 4.4

出所：ブラックロック、ブルームバーグ、S&P、2020年10月末時点
2. NASDAQ100は、ナスダックに上場する約3,000銘柄のうち非金融銘柄の時価総額上位100銘柄の時価総額を加重平均して算出され、テクノロジー銘柄の組み入れ割合が高い傾向にあります。

投資スタンスに応じて取引可能なiシェアーズ S&P500連動ETF

日本の個人投資家がS&P500に連動するETFに投資する場合、国内上場ETFもしくは海外上場ETFという選択肢があります。ブラックロックでは、国内上場ETFで2銘柄、海外上場ETFで1銘柄ご提供しています。ブラックロックが提供するiシェアーズ S&P500連動ETF、3銘柄の特徴や銘柄ごとの詳細は以下の通りです(表2)。

<iシェアーズ S&P500連動ETFの特徴>

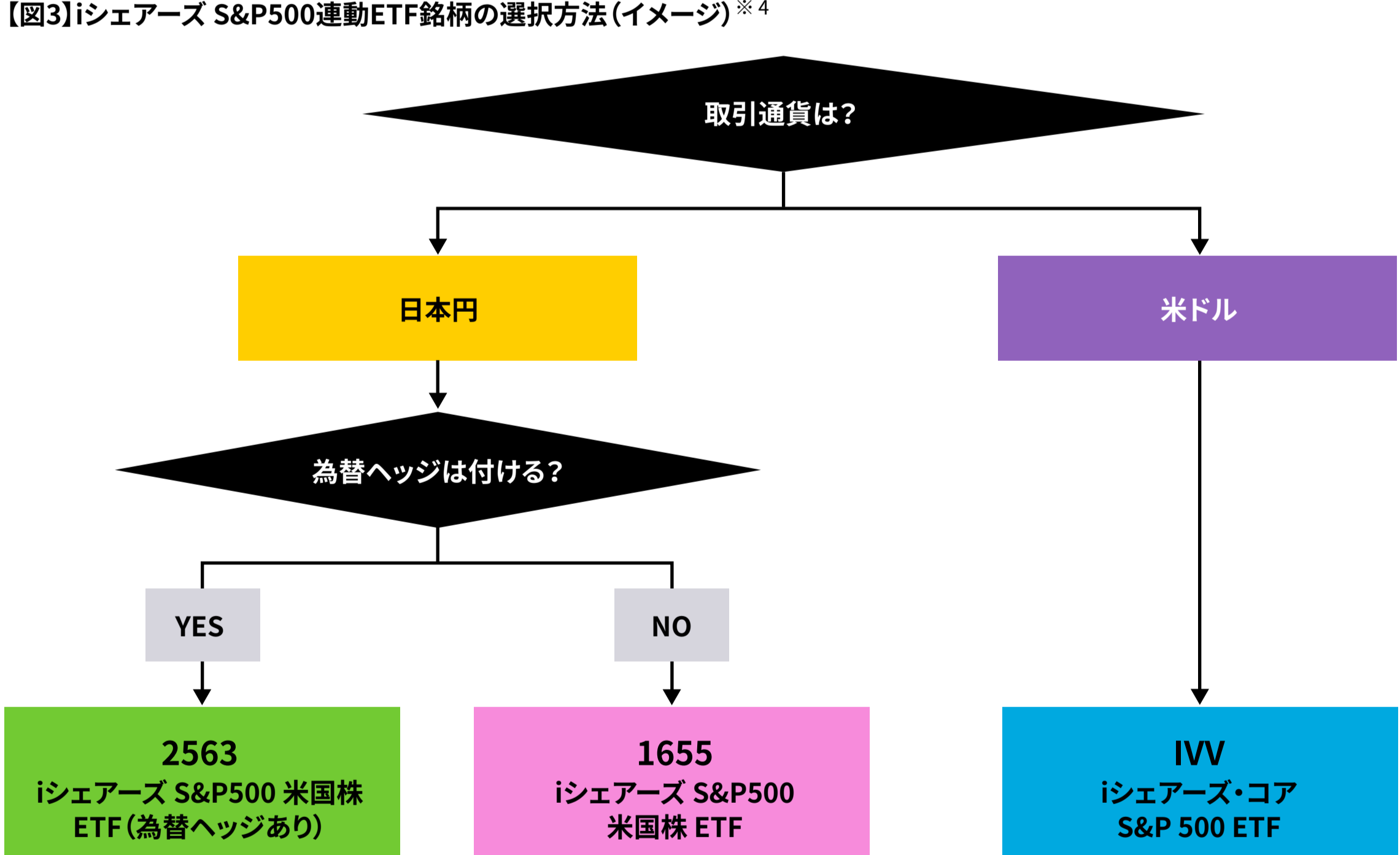
- 米国の株式市場を代表するS&P500採用銘柄が投資対象
- 分散投資および長期的な資産成長を目指すために活用できる
- お客様の投資スタンスに合わせてETFを選択できる(図3)

【表2】iシェアーズ S&P500連動ETF(2020年10月末時点)

	国内上場ETF	海外上場ETF ^{*1}
銘柄コード	1655	2563
銘柄名	iシェアーズ S&P 500 米国株 ETF	iシェアーズ S&P 500 米国株 ETF (為替ヘッジあり)
上場市場	東京証券取引所	
設定日	2017年9月27日	2020年6月18日
分配金支払回数	年2回	
基準通貨	日本円	
信託報酬率(税抜)/経費率 ^{*2}	2021年6月18日まで:0.075%(税込0.0825%)程度。それ以降は0.15%(税込0.165%)程度が適用されます。 ^{*3}	0.03%

※1 海外の証券取引所に上場しているETFは、証券会社によって取り扱い商品が異なります。詳細はお取引先の金融商品取引業者(証券会社)にお問い合わせください。
※2 東京証券取引所に上場されている1655および2563については、国内株式と同様の手数料体系が、IVVについては海外株式と同様の手数料体系が適用されます。iシェアーズETFを売買する際の手数料は取扱いの証券会社によって定められます。詳しくは証券会社までお問い合わせください。
※3 2020年6月18日～2021年6月18日は、0.075%(税込0.0825%)、それ以降は0.15%(税込0.165%)が適用されます。
・委託会社および受託会社の判断で当該料率の変更、また適用される期間が変更されることがあります。
・投資するETFの投資比率や報酬率等が変更になる可能性があり、実質的な負担についても変動することがあります。信託報酬の他にも、ETFの保有に伴うその他の費用・手数料が別途かかります。詳細は、目録見書をご参照ください。

【図3】iシェアーズ S&P500連動ETF銘柄の選択方法(イメージ)^{*4}



※4 上記は、情報の提供のみを目的としており、投資その他の行動を勧誘し、特定の銘柄を推奨するものではありません。銘柄の選択などの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断にてお願いいたします。

まとめ

- 政権と株価の関係性は低い：米国大統領の所属党派にかかわらず、米国株市場は成長を続けてきた。
- 回復力の高い米国株：過去、米国株は世界金融危機に代表されるような大きな株価下落後、世界株や日本株より早く元の株価水準に回復していた。
- 米国株式市場を代表するS&P500指数：S&P 500は、米国の主要産業を代表する500社から構成され、巨大IT企業のカンファム(アルファベット(グーグル持ち株会社)、アマゾン・ドット・コム、フェイスブック、アップル、マイクロソフト)なども構成銘柄に含む。
- iシェアーズS&P500連動ETFは投資スタンスに応じて取引可能な3種類：取引通貨、為替ヘッジ有り/無し等、投資スタンスによって選択が可能。

iシェアーズS&P500連動ETFは、高い成長が期待できる米国株市場へ低コストで、かつ銘柄分散をして投資することを可能にします。

国内上場のiシェアーズS&P500連動ETF(銘柄コード1655および2563)は、2021年6月18日まで0.15%(税込0.165%)程度の信託報酬を0.075%(税込0.0825%)程度に引き下げています。^{*3}皆様の資産形成の一助として、是非ご検討ください。

重要事項

本資料は、日本国内居住者である投資家を対象に、ブラックロック・インクを含むそのグループ会社(以下、「ブラックロック」という。)が運用を行うiシェアーズETFに係る基本的な特徴やリスク等の概要を説明するために、ブラックロック・ジャパン株式会社(以下「弊社」という。)が作成したものです。iシェアーズETFへの投資による損益はすべて投資家の皆様によるものであり、投資をご検討される際は、取扱い金融商品取引業者にて交付される契約締結前書等を十分に確認の上、ご自身で判断下さい。弊社はiシェアーズETFに関する情報の提供は行っておりませんが、その売買するに係る契約の締結を行ってまいります。本資料は信託でのご購入とご売却の両方に基づき作成されています。また、中小企業への投資や、特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなります。iシェアーズETF東証上場シリーズは円建ての金融商品であり、海外投資を行う場合は円と投資対象通貨との間の為替変動が運用成果に影響を与えます。信用取引等のお取引をされる場合は、保証金または証拠金以上のお取引が可能であるため、保証金または証拠金を超える大きな損失を被ることがあります。

手数料、費用等について

<東証上場iシェアーズETFについて>
東京証券取引所に上場しているiシェアーズETFを売買する際は取扱いの金融商品取引業者(証券会社)によって定められます。詳しくは証券会社までお問い合わせください。ETFを保有する期間は運用管理費用等を間接的にご負担いただけます。
<海外上場iシェアーズETFについて>
海外証券取引所に上場しているiシェアーズETFの売買の際の手数料は取扱いの金融商品取引業者(証券会社)によって定められます。売買にあたっては、前述の手数料の他に、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生することがあります。(現地法制度等により定められるため記載できません。)売買にあたり、円貨と外貨、または異なる外貨間での交換をする際には、それぞれの証券会社で別途定められた手数料が課せられることがあります。ETFを保有する期間は運用管理費用等を間接的にご負担いただけます。

保有時の費用率は個別のiシェアーズETFによって異なります。また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。個別のiシェアーズETFに関する情報、運用報酬・管理報酬等については、取扱い金融商品取引業者(証券会社)、またはiシェアーズETFに関するウェブサイト(www.blackrock.com/jp/ishares/)にてご確認ください。

©2020 BlackRock Japan Co., Ltd. All rights reserved. iShares® (iシェアーズ®) およびBlackRock® (ブラックロック®) はブラックロック・インクおよび米国その他の地域におけるその子会社の登録商標です。他のすべての商標、サービスマークまたは登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。本資料で言及されている指数の著作権その他一切の知的財産権は、指数名の提供会社に帰属します。指数提供会社は、iシェアーズETFのいずれに関しても出資、保証、発行、販売、または販売促進を行うものではなく、またiシェアーズETFへの投資の妥当性についていかなる表明も行いません。ブラックロックは上記の指数提供会社の関連会社ではありません。

ブラックロック・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第375号
加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
ウェブサイト http://www.blackrock.co.jp
〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号丸の内トラストタワー本館
Tel. 03-6703-4100(代表)